

介護、医療、子育て、老後に関する
ご意見・疑問をお寄せ下さい
メールansin@yomiuri.com
ファクス03・3217・9957

長生きのエアール

5

そばにいてくれる人の力

そばで支えてくれる人の存在は、誰にも安心をもたらします。長生きの時代、「地域の力」は大きな支えになるはず。連載の最後は、そんな力になろうとする人たちの姿を追いました。

民生委員 陰で地域福祉支える

「寒くなってきましたね。暖かくしてください」「何かあったら連絡を」。――。

工業都市として知られる三重県四日市市。中心部から車で約20分の四郷地区で、昨年11月下旬、浅井健介さん(24)が高齢者の家を回って声をかけていた。

約1年前、地域の福祉を支える民生委員になった。四郷地区で活動する民生委員の平均年齢は65・7歳。もちろん一番若い。厚生労働省によると、2022年12月時点で「30歳未満の民生委員」は全国で25人。9000人に1人の割合だ。

地区の自治会長をしている父・文博さん(57)に「不在にしたくないから、頼むわ」と懇願された。高齢を理由に辞めることになった民生委員の後任を頼むため、自治会内の380世帯ほどを回ったが、引き受けてくれる人はいなかったという。

民生委員は多忙だ。地域住民を見守りつつ、困りごとの相談を受ける。必要なら専門機関につなげる。地域のことを考える会議や、研修もたびたびある。無報酬のボランティアで、元々60代以上の民生委員が多いが、最近では高齢期も働く人が多く、なり手を見つけないのは難しい。全国で約1万5000人の欠員が生じているという。

生まれてから24年間、この地

「困りごとを話してもらうには、ふだんの関係作りが大切」という(昨年11月24日、三重県四日市市で)

「30歳未満」全国で25人 厚労省調査

「30歳未満」全国で25人 厚労省調査

域で暮らしてきた。小学校の登下校の見守りや夏祭り、一斉清掃……。地域の人たちに世話になってきたよな。思い切って、やってみることにした。

浅井さんは会社員で、勤務先が提携しているコンビニ店で働く。帰宅後や休日を民生委員の活動に充てているという。

一人暮らしや高齢者だけの世帯を訪ね、困りごとを聞くのが中心だ。ただ、訪ねても反応がなかったり、インターホン越しにしか話せなかったりもする。

地域の人に顔と名前を覚えてもらうと、早起きしてラジオ体操の輪に入った。訪問する時は、声のトーンを高くし、こやかに話すことを意識する。何度か通う中で、一人暮らしの高齢女性が、「通院でタクシー代がかさむのが悩み」と話してくれた。地域で運営している低料金の送迎サービスがあることを調べて伝えると、「助かった」と喜んでくれた。

「待ったで」「また相談させて」。次第に、訪問先でこんな言葉をかけられるようになってきた。



地域住民を訪ねる浅井さん(左)。「困りごとを話してもらうには、ふだんの関係作りが大切」という(昨年11月24日、三重県四日市市で)